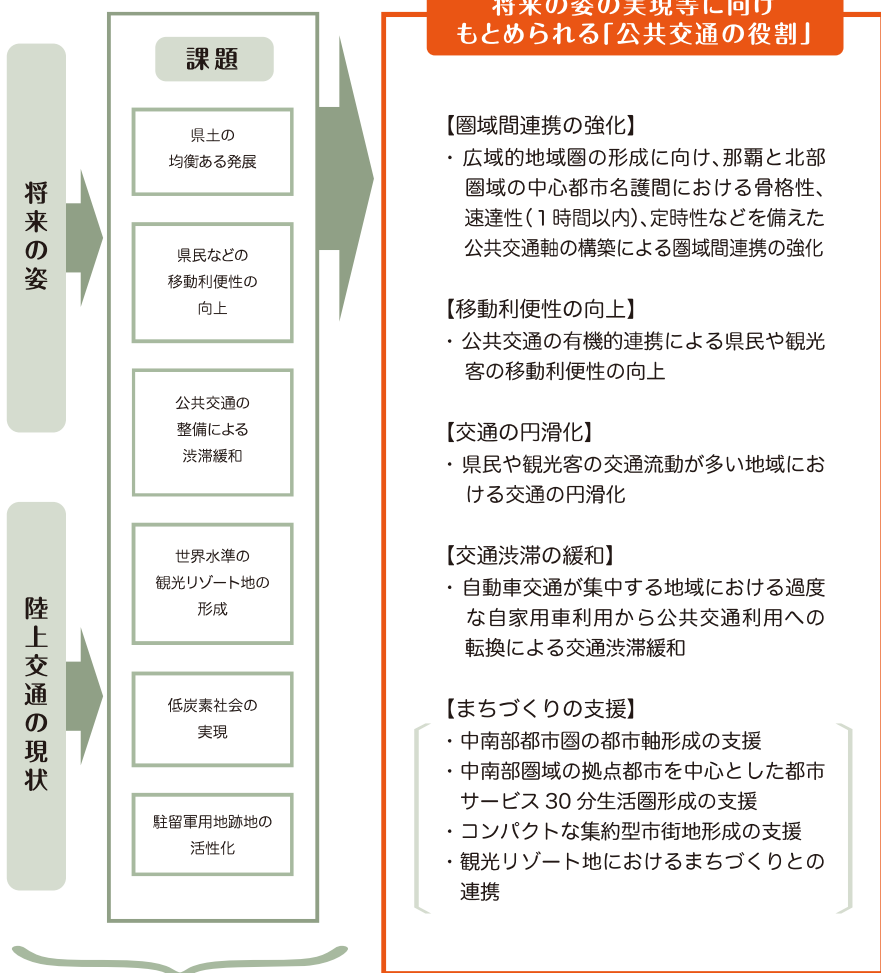


2. 対策案検討の基本的考え方について

- 2～3ページで示した沖繩の将来の姿の実現、ステップ2で確認された沖繩の陸上交通の現状の課題解決の観点から「公共交通の役割」を整理した上で、もともたれる「公共交通に関する取組」(右上図)を整理しました。
- そのうち、「今後、具体的な検討がもともたれるもの」として、「骨格軸とフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワークの構築」を本計画案における「対策案」とします。

- 対策案は、将来の姿の実現等に向けもめられる「公共交通の役割」を踏まえ検討を行います。
みなさんは、将来の姿の実現等に向け、公共交通にどのような役割、どのような取組をもとめますか？



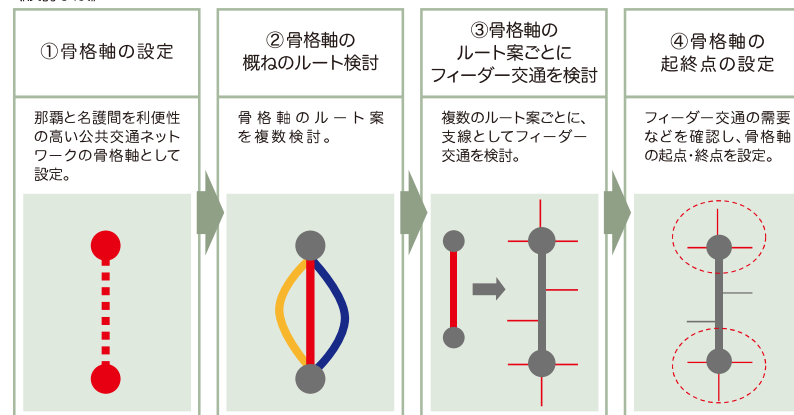
将来の姿の実現等に向けもめられる「公共交通に関する取組」

- ① 既に取り組みが始まっているもの(公共交通への利用転換等に向けた取組)
 - 現在進めているノンステップバスやIC乗車券システムの導入など、バスの利用環境改善に向けた取組を着実に実施し、県民や市町村と連携して公共交通への利用転換に向けた取組なども推進します。
 - ② 今後、具体的な検討がもめられるもの
 - 那覇と名護間における骨格性、速達性(1時間以内)等を備えた公共交通軸(「骨格軸」)の構築や公共交通の有機的連携による移動利便性の向上、交通の円滑化などを図るため、**骨格軸とフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワークの構築**が必要です。
- これを対策案として検討を行うよ。
- 骨格軸：那覇と名護間における骨格性、速達性などを備えた公共交通軸
フィーダー交通：骨格軸と有機的に連携する支線

対策案検討の進め方

- 対策案については、将来の姿の実現等に向けもめられる「公共交通の役割」を踏まえ、下記のとおり検討を行います。
- 具体的には、骨格軸の検討を柱に、概ねのルートなどについて検討を行うとともに、フィーダー交通については、骨格軸のルート案ごとに、既存の公共交通の利用状況などを勘案し、骨格軸の機能発揮に資するネットワークについて検討を行います。

《検討手順》



※対策案の検討にあたっては、「将来の姿の実現等に向けて公共交通にもめられる役割」を踏まえ想定されるシステムについても検討を行います。

将来の姿の実現等に向け、公共交通にどのような役割、どのような取組をもとめますか？

※8ページのアンケート問3でお答え下さい。



「陸上交通の現状と課題」は、ステップ2において、県民の皆さまのご意見を踏まえ整理しました。



上の「公共交通の役割」をもとに対策案が検討されていくんだよ